

部下の自死に接したリーダーの行動の是非

管理職のクライシス・マネジメントを考える

5

ケース教材の概要

管理職である高橋は、ある日の早朝、休憩室で部下の自死に遭遇する。そのビルには、おおよそ 300 名の従業員が勤務していた。

10

管理職が対応を一つ間違えれば、組織の混乱を招き、多くの従業員が心の傷を負うことにもなりかねない。管理職は、そのような想定外の事態に遭遇した時に、どのような対応をすべきなのか？

15

本ケース教材は、部下の自死に接したリーダーの行動を追ったものである。

このケース教材は立命館大学大学院経営管理研究科（ビジネススクール）修士課程の仙波光之が、水野由香里教授の指導の下で作成した。RBS リサーチ・ライブラリーに登録されたケース教材は、教育教材として作成されたものであり、特定の個人や企業等の経営判断を問うことを意図してはいない。ただし、本ケース教材の記述に関する一切の責任は筆者に帰すものとする。

RBS リサーチ・ライブラリー 2023.